

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 15 日現在

機関番号：12603

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21520654

研究課題名（和文） モンゴルにおける景観認識の歴史——古地図の研究——

研究課題名（英文） A History of Mongolian Conceptions of Landscapes --- A Study of Old Manuscript Maps

研究代表者

二木 博史 (FUTAKI HIROSHI)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授

研究者番号：90219072

研究成果の概要（和文）：モンゴル国立中央文書館、モンゴル国立図書館に所蔵される手書きの地図や、地図作成を指示する公文書、地図に添付された境界報告書（cese）の分析にもとづき、清代のモンゴル地域における地図作成が、そのときどきの清朝の対外政策や対モンゴル人政策と密接にむすびついていたこと、初期の地図は各地域のモンゴル人の景観認識、地理知識をより直接的に反映していたが、19 世紀中葉以降になると、画一的な縮尺により、より規範的な地図の作成がなされるようになったことをあきらかにした。

研究成果の概要（英文）：By analyzing manuscript maps of Mongolia, archival materials related to map making and boundary reports (nutug-un cese) kept in the National Central Archives of Mongolia and the National Library of Mongolia, we've come to the following conclusions. First, the map making during the Qing era was closely connected with the change of the dynasty's foreign policies in general and domestic policies toward the Mongols in particular. Second, while early maps made in the 1800s had reflected Mongolian perceptions of landscapes and their geographical knowledge more directly, after the middle of the 19th century, with the introduction of unified regulations on map making, they began to make more standardized maps.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009 年度	1,500,000	450,000	1,950,000
2010 年度	900,000	270,000	1,170,000
2011 年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
年度			
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学、史学一般

キーワード：史料学、景観認識、統治制度、古地図、モンゴル、清代

1. 研究開始当初の背景

(1) モンゴルの古地図の研究と出版の面では、ドイツの H.ハイシッヒらによる現ドイツ・ベルリン国立図書館所蔵の地図を利用した文献学的研究（*Mongolische Ortsnamen Teil I-III*, 1966-1981, Wiesbaden）を代表的先行研究としてあげることができる。多数の地図がフ

ァクシミリのかたちで出版され、地名インデックスも作成されたので、歴史研究のうえで有用な参考資料として利用されてきた。

(2) モンゴルの研究者 Ts. シャグダルスレンは、地図と同時に作成された「境界報告書」（nutug-un cese）の存在にも注目しつつ、モンゴルにおける地図作成をモンゴル文化史のな

かに位置づけようところみた(Shagdarsüren, Ts. 2003. Mongolchuudyn ulamjilalt zurag. In Ts. Shagdarsüren, *Mongolchuudyn utga soyolyn tovchoon*, Ulaanbaatar: 15-28)。ただし、モンゴルでおこなわれてきた研究には、清朝の命令によって作成された地図の作図法を、ふるくからモンゴル人によってうけつがれてきた独自の技法と安易に位置づける傾向がある。

(3) 研究代表者と分担者は、上記のこれまでの研究への批判にもとづき、地図によるあたらしい研究を模索して、東京外国語大学大学院 21 世紀 COE プログラム『史資料ハブ地域文化研究拠点』の一環として、2005 年に、Futaki Hiroshi and Kamimura Akira (eds.) *Landscapes Reflected in Old Mongolian Maps* を刊行した。本書には、本プログラムで収集した 16 枚の地図、「境界報告書」(nutug-un cese)、関連資料のほか、モンゴル古地図の解題、作図法・景観認識・境界報告書(nutug-un cese)に関する研究論文を収録した。さらに、地図上の文字情報リスト、およびそれらを地図上で確認できるデータベースの収録された CD をふした。

(4) 上記 COE プログラムの一環として、モンゴル文書管理局と共催で、モンゴルのオンラインで国際シンポジウムを開催するなど、モンゴル文書管理局との協力関係が構築されたので、モンゴル国立中央文書館に所蔵される史料の利用が充分可能であろうというみとおしをえた。

2. 研究の目的

(1) 景観描写など地図の作図法の歴史的変化の過程、とくに清朝支配下のモンゴルで古地図の作図法の標準がさだまっていく過程を、古地図の収集・分析と現地調査によってあきらかにする。

(2) 上記 21 世紀 COE プログラムでは、体系的に地図資料を収集・分析することができなかったため、可能なかぎり、ふるい年代のものからあたらしい年代のものまで、各時代のモンゴル地図を研究の対象とする。

(3) 現在の景観については現地調査でえたデータを使用し、歴史的景観については古地図の景観認識の分析によってえられたデータにもとづき、画像資料としての地図の、景観描写における、時代ごとの特徴をあきらかにする。

(4) モンゴル国立中央文書館などに所蔵される文書史料の分析により、地図が作成される際、また地図の作図法・記述の標準がさだまっていく際のモンゴルの領主たちと清朝政府との交渉の過程をあきらかにする。

3. 研究の方法

(1) モンゴル国立図書館、モンゴル国立中央

文書館に所蔵される清代のモンゴルの盟や旗(当時の行政単位)の地図を、デジタル化、複写等の方法で収集し、ドイツのベルリン国立図書館に所蔵され、現在はウェブ上で公開されている地図や、日本の天理図書館に所蔵される同種の地図をも視野にいれつつ、分析をおこなう。

(2) 上記の図書館、文書館に所蔵される「境界報告書」(nutug-un cese)を収集・分析する。同様に地図・境界報告書の作成に関する命令・指示をふくむ公文書を収集・分析し、中央政府の方針が各盟、各旗につたえられたプロセスをあきらかにする。

(3) 文字資料としてだけでなく、画像資料としても地図を分析し、その成果と、文化人類学的な現地調査でえられた結果を照合する研究手法を導入する。

(4) 地図の作図法の変遷を、モンゴル地域をとりまく地政学的な状況の変化、同地域に対する清朝の統治のあり方の変化によって説明しようという作業仮説を設定し、その仮説の妥当性を検証する。

(5) 研究の最終年度にモンゴルの地図・地名に関する国際ワークショップをモンゴルにおいて開催し、本研究における研究成果を紹介するとともに、それに対する評価をあおぐ。

4. 研究成果

(1) モンゴル地域の比較のおおきの地図がのこっている最初の年代は 1805 年(嘉慶 10 年)だということが確認された。これは、『欽定大清会典図』のために、会典を編纂する会典館から地図作成の命令がモンゴル地域にだされたことと、直接関係がある。初期の地図は、紙面全体をつかいて旗の景観をえがく、河を絵画的にえがく、山を旗の内部から、とくに寺院や旗の役所のある場所を中心にして、そとにむかう視線でえがく、などの特徴を有する。

(2) モンゴルの地図の作成方法におおきな変化をもたらしたのは、1864 年(同治 3 年)の総理衙門の命令である。タルバガタイ条約(1864 年)などに代表されるロシアの南下政策に対抗するため、清朝は、正確な地図を作成する必要にせまられた。実測により、2 寸対 50 里、すなわち 45 万分の 1 という縮尺で、方眼をもちいて、作図すべきことが指示された。この時点では、地図の上が南になっていた。地図に添付された境界報告書には、それぞれのオボー(境界標識)と隣接のオボーとのあいだの距離と方向が精密に記述されている。

(3) 1890 年(光緒 16 年)に作成された地図から、モンゴルにおける地図のつくりかたが、ほぼ最終的に確立した。この時期から、地図の上が北になった。

(4) 清末の「新政」によってモンゴル地域の

「自治」がうしなわれ、間接統治から直接統治に方針転換がおこなわれるなかで作成された1910年(宣統2年)の地図では、外モンゴルの開発にかかわる項目(鉱山、農業、漁業など)が地図に添付されている。

(5) 2011年8月14日にモンゴルのオランバートルでモンゴルの歴史地理研究者、地図研究者、地名研究者の参加をもとめ、本研究課題の研究成果を公開するための、モンゴロ古地図研究の国際ワークショップを開催した。研究代表者、研究分担者、研究協力者など計8名が報告した。本研究であきらかになった主要な結論は、独自のもので、世界のモンゴル研究に寄与するところ大だという、肯定的な評価をえた。また、この種のワークショップそれ自体、モンゴル研究の歴史のなかではじめてのものであり、たいへん注目された。

(6) 外モンゴルの東部のセツェン・ハン・アイマク、トゥシェート・ハン・アイマクの地図と、西部のザサグト・ハン・アイマクの地図とでは作図法にあきらかな差異がみられるなど、地域差がみられるが、それが当該の地域の地理的条件によるものなのか、べつの要素も考慮すべきなのかについては、今後、さらに検討する必要がある。

(7) 手書きの地図の作成は、モンゴルの独立後の1920年代まで、つづけられたことが確認されるが、これらのもっともあとの時代の地図が、清代の地図とはことなる特徴を有するのかどうかについての解明も、今後の検討課題である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 12件)

① Hiroshi Futaki, *Mongol hel deerhi Jivzundamba Hutagtyn namtar, Orhonii hōndiin öv*, 査読無、No. 1, 2012, 34-54.

② 二木博史、モンゴル語版『ジェプツンダンバ・ホトクト伝』について、東京外国語大学論集、査読無、82号、2011、1-20.

③ 二木博史、1937年に関東軍参謀部が作成した“満蒙国境要図”について——清代の地図との比較を中心に——、ノモンハン事件(ハルハ河会戦)70周年2009年ウランバートル国際シンポジウム報告集、査読無、2010年、115-134.

④ 上村明「国土・国境・国民：戦争の想像力——「祖国」防衛戦争としてのハルハ河戦争——」、ノモンハン事件(ハルハ河会戦)70周年2009年ウランバートル国際シンポジウム報告集、査読無、2010年、519-530.

⑤ 二木博史、天理図書館所蔵のモンゴル地図コレクションについて、*A New Global Order in North East Asia, Proceedings of the*

International Conference on Global Order from the Perspective of Archives, History, Literature, and Media: Focus on North East Asian Society June 23-25, 2008, Ulaanbaatar, Mongolia, 査読無、2009年、27-44.

[学会発表] (計 7件)

① Kamimura Akira and Möngönhüü Ganbold, *History Inscribed on the Landscape on a Manuscript Map Representing the Territory of the Jütgelt Lord's Banner of Altai-Urianhai Produced in the 1910s, The Fourth International Symposium in Ulaanbaatar: The History and Culture of Mongols in the 20th Century*, Aug. 18, 2011, Ulaanbaatar, Mongolia.

② Hiroshi Futaki, *XX зууны eheer Halhyn зүүн hesgeer shinjilgee hiisen yapon sudlaachdyn ajiglalt ba ted naryn üildsen gazryn zurguud, International Academic Workshop: Tradition of Manuscript Maps in Mongolia under Qing Rule and the Bogd Khaan --- Cartography and Onomastics*, Aug. 14, 2011, Ulaanbaatar, Mongolia.

③ Kamimura Akira, *Power and Maps --- Governmental View to the Mongolian Land in the Second Half of the 19th Century and the Beginning of the 20th Century, International Academic Workshop: Tradition of Manuscript Maps in Mongolia under Qing Rule and the Bogd Khaan --- Cartography and Onomastics*, Aug. 14, 2011, Ulaanbaatar, Mongolia.

[図書] (計 2件)

① 吉田ゆり子他編、画像史料論、東京外国語大学出版会、2012年、[印刷中]、上村明「地図の描き方と統治の手法——モンゴルの古地図をめぐる」を収録]

6. 研究組織

(1) 研究代表者

二木 博史 (FUTAKI HIROSHI)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授

研究者番号：90219072

(2) 研究分担者

上村 明 (KAMIMURA AKIRA)

東京外国語大学・外国語学部・研究員

研究者番号：90376830

(3) 研究協力者

Ts. Shagdarsüren

オランバートル大学教授

L. Altanzayaa

モンゴル国立教育大学教授

D. Ölziibaatar

モンゴル文書管理局長

G. Akim

前モンゴル国立図書館長

L. Chuluunbaatar

モンゴル国立大学教授

E. Ravdan

モンゴル国立大学地名研究センター長